
白黒

夜鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白黒

【Zコード】

Z8642C

【作者名】

夜鳥

【あらすじ】

神が世界を創る前から天地は白と黒に分かれ、地球に有つた。
2
話完結。

空が有つた。

海が有つた。

草が有つた。

生まれて間もない小さな生命が生きていた。

世界は『現在』を刻んでいた。

不穏の無い、平和な時が流れていた。

黒い闇が大地を飲み込み渦巻いていた。
真つ白な光が空から其れを照らしていた。

大地の漆黒、天上の純白。

それだけでも世界は美しかった。

けれど神は更に美しいものを求めた。

そして生まれたのが、人間、

それらは、神の欲求を満たすための玩具。

黒と白。

相反する一つの色。

人の手によつて作り出せる色のうちの、其の一色は、人が生まれる其のずっと前から。

いつの間にか此の世界に有つた。

人は其の呼び名を知らない。

人間には未だ、色を与えていなかつた。

無知で無垢、かつ純真で純潔。其のが故純粋なまでに残酷。

傑作の存在、種類名は‘人’。

生まれたばかりの‘人間’に、創造主は名を授けた。

『アダム』と『イヴ』

そして一色に色付けた其の世界に、新たなる『色』を加えていった。

思いついた創造物を其の世界に住まわす度、色は増えてゆく。

天地が白と黒だけでなくなつた。

創造主の思いつきで、白と黒は居場所を無くし始めていた。

白の領域の天空は青に赤に。

黒の領域の大地は黄に緑に。

『色とりどり』の世界。

奢れる創造主の侵蝕は、一色の領域を容易に越えた。

色彩が豊かになり、色が溢れ満ちてくる。

そんな時。

白と黒は、残る力を振り絞り動いた。

世界が消えてしまつ前に。

自らを守る為に。

天地半ばの空間で、闇と光がぶつかる。

一瞬の接触。

そして一時の融合。

絡まり合つようにして解けた其れは、うねり、混ざり、濁り色に姿を変えながら紅く発光し、勢い良く弾け飛んだ。爆発ではなかつた。

それは優しい光の包容だつた。

闇を含んだ白き光が、何万もの細い糸になり、世界全体を覆い尽くす。

そしてそれらは数瞬の内に消え去り、また色彩豊かな創られた世界へ変わる。

青に変わつた空。

白はもう浮かぶ雲でしかいない。

光の弾けた空から、灰色の塊が落ちてくる。

白と黒の生み出した子。

創造主への最期の反抗。

其れが眼を開いた時から。

愚かな神の創りし美園は、荒野へと変わり始めた。

2 (前書き)

最終話。

天地が我を創り賜うたならば、此の身滅びさするも世界。
息吹音色満ち足りた此處には、我は蛇足でしかあらぬ存在。

何故此の身創り賜うた？

此の身触れば病魔に喰われ。
此の身駆ければ大地を腐らす。
此の声聽けば正氣を奪ひ。
此の身見止めれば其れを殺す。

此の身…

生きるに何の楽しさが有ると聞ふ。
生きるに何の希望が有ると言ふ。

生きるには苦だけが付きまとつて、弱き我を病ませつる。

さすれど死は我を迎えず。

生き存え、此の身が故、幾つのものを滅ぼしたるゝ。
我が慕うものは其の身滅ぼし。
我が嫌うものが増えゆく。

天地の愛で子。

世界に創られし我が身。

至な我が愛し子なりま、この子なりま忌み子。

其のよつた事が有つて良いものだらうか。

もし創造主が此の声を聽くのなら、我を海に変えてはくれぬか。

愛するが故に創られた、然れど『愛』は其の身には無い。
忌み子でも我は慈しめる。忌み子など元から無いのだから。

忌み子、言ふなれば其れは我を言ふ。

海は青い。

闇と光を孕んだ其の青は、我を創りし者らの心。

創造主の作り賜つたものの中に一つだけ。
その存在の証に一つだけ。

海の青に、自ら飛び込んで色を付けた。
青く暗く。

生命育まれ弄られる事の無い領域。

消えゆく我が身、意識の中で、愛しい忌み子の名を呼んだ。

愛し、愛し、此の身朽ちれど彼の子の為ぞ。
嗚々……愛し彼の子りよ。

海は空に上がり地に落ちてまた海へと巡る。
我の心、此の身を海へとけ込ませ。

慕う者らを慈しみ、見守れるように……と。

我が身まぎれて此の変わり果てた大地に身を落とす。

我の色、我の色、愛し子らを守り続けませつ。
愛し子らは我を忘るだらひつじせ。

其れでも。

愛し子ら、生き抜ける道があるなりば。

故に、後の人は其の色を『藍』と呼ぶ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8642c/>

白黒

2011年1月16日02時10分発行